

ビワ生育情報

千葉県
平成22年4月号

平成22年3月の気象

平成22年3月の半旬別の気象は表1に示した。平均気温は第1、第3及び第4半旬で平年に比べ2.1~2.5 高く推移し、平年を大きく上回った。また、第2、第5、第6半旬では、平年に比べ1.2~4.2 低く推移し、平年を大きく下回るなど気温の変化が非常に激しかった。月平均気温は9.0 で、平年より0.2 低く、前年より0.3 低かった。

氷点下日数は全ての半旬で見られなかった。

最低極温は第6半旬を除く全ての半旬で平年と同じか上回った。3月29日には0 を記録し、3月で最も寒かった。

降水量は第3及び第6半旬を除く全ての半旬で平年を上回り、第3半旬には降雨がなかった。月合計は211mmで、平年より27mm(15%)、前年より37mm(21%)多かった。

日照時間は第3、第4及び第6半旬で平年を上回ったが、月合計は130時間で、平年より24時間(16%)、前年より32時間(20%)少なかった。

表1 平成22年3月の気象 (暖地園芸研究所)

半旬	気温()			氷点下日数(日)			最低極温()		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	9.8	7.5	5.4	0	1.0	0	3.5	0.0	0.8
2	6.6	8.2	10.0	0	0.9	0	0.9	0.4	5.2
3	11.2	8.7	8.3	0	0.7	0	2.5	0.8	0.8
4	11.5	9.4	13.3	0	0.4	0	3.9	1.9	3.7
5	8.8	10.0	10.9	0	0.3	0	2.2	2.2	3.6
6	6.6	10.8	8.2	0	0.2	0	0.0	2.5	2.5
平均/計/最低値	9.0	9.2	9.3	0	3.4	0	0.0	-1.4	0.8

: 3月の過去36年間の最低極温の平均値

半旬	降水量(mm)			日照時間(時間)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	36	23	23	16	26	20
2	62	22	95	7	26	15
3	0	30	12	37	25	28
4	22	21	26	26	24	37
5	90	46	20	14	24	13
6	1	42	0	30	29	49
合計	211	184	174	130	154	162

5月の作業 (果実の発育は次ページ)

ビワの袋掛けも終わり、展葉の終わった新葉は濃緑色になり、果実は成熟期を迎える。収穫の最盛期は6月であるが、5月からは早生品種の収穫が始まる。

収穫

早いところでは早生品種の収穫が5月の中旬頃から始まるので、収穫前にモノレールや索道、道路を整備するとともに園内の草を払っておき、収穫道具や出荷用箱を揃えておく。

1 樹の収穫は 2 ~ 3 回に分けて完熟果実を収穫するが、特に 1 回目の初収穫では未熟果が混入しないように熟度をよく確認して収穫する。

台木の養成

ビワの苗木は生産しているところが少ないので、自家生産しなければならない。毎年種をまいて、台木用の実生を確保しておくことと容易に苗を作ることができる。「楠」の実生は、播種後の肥大が早く、根張りが良いので台木に適している。台木は播種後 2、3 年間養成して人差指の太さ程度になった実生を用いる。種子は露地に播くとごま色斑点病などに侵されて枯死しやすいので、ビニールで屋根掛けして雨水を遮断しておくことよい。

果実の発育

4 月 1 日現在のビワの果径は表 2 に示した。横径は「楠」が 1.60cm、「大房」及び「田中」は 3 地区の平均で見るとそれぞれ 1.73cm、1.59cm であった。本年の横径は「楠」及び「田中」は平年と同程度、「大房」は平年より 7 % 程度大きかったが、3 品種ともに生育が早かった前年より 10% 程度小さかった。

縦径は「楠」が 1.89cm、「大房」及び「田中」は 3 地区の平均で見るとそれぞれ 2.06cm、1.99 cm であった。本年の縦径は「楠」は平年より 5 % 程度小さく、「大房」及び「田中」は平年と同程度であった。また、生育が早かった前年に比べ、「楠」は 15% 程度小さく、「大房」及び「田中」は 10% 程度小さかった。

果径指数は「楠」が 0.85、「大房」及び「田中」は 3 地区の平均で見るとそれぞれ 0.82、0.80 であった。本年の果形指数は平年より高く、果形は平年よりやや丸い傾向であった。

4 月時点の果実の発育は、「楠」及び「田中」は平年と同程度で、「大房」は平年よりやや進んでいる。本年は平年に比べ、着花房率が著しく低く、寒害の被害は少なかったものの、着果量は少ない。また、病害虫はクワゴマダラヒトリの発生が平年並で、果実の被害程度も平年並みである。果樹カメムシ類の越冬量は、南房総市ほか県南地域で平年並であるが、今後の発生予察情報を参考にす。カメムシの発生の多い園では、4 月以降ビワ園への飛来に注意を要する。

表 2 果実の発育 (4 月 1 日の果径)

品 種	調査地	横 径(cm)			縦 径(cm)			果径指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	1.60	1.60	1.82	1.89	1.97	2.19	0.85	0.81	0.83
	青 木	1.71	1.63	1.85	2.06	2.00	2.21	0.82	0.81	0.84
大 房	南 無 谷	1.81	1.72	2.03	2.07	2.11	2.34	0.81	0.80	0.87
	暖地園研	1.68	1.49	1.93	2.04	1.88	2.31	0.82	0.79	0.84
	平 均	1.73	1.61	1.94	2.06	2.00	2.29	0.82	0.80	0.85
田 中	青 木	1.63	1.63	1.78	2.01	2.02	2.20	0.81	0.81	0.81
	南 無 谷	1.56	1.58	1.70	1.98	2.06	2.05	0.79	0.77	0.83
	暖地園研	1.59	1.52	1.87	1.97	1.94	2.21	0.81	0.78	0.85
	平 均	1.59	1.58	1.78	1.99	2.01	2.15	0.80	0.78	0.83

果径指数：横径 / 縦径

平年：1986年～2009年の24年間の平均

【生育情報の問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室

電話0470-22-2961】

果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>